

平成25年度 阿賀町総合的な学習の時間研究部 活動報告

部長 長谷川 寛

- 1 研究主題 生き生きと活動し自ら探求する子どもの育成
- 2 研究の概要 第1回…運営計画の確認
第2回…各校年間指導計画について意見交換
第3回…講話：「福祉の学習への取組について」
講師：阿賀町総合福祉保健センター長 加藤 剛 様
阿賀町高齢者福祉協議会 齋藤 淳也 様
第4回…授業研究指導案検討会
第5回…授業研究 授業者：阿賀町立三郷小学校 伊藤睦美 教諭
単元名：「伝えよう！わたしたちの思い」

3 研究の実際

(1) 授業研究から

福島の被災地の学校と交流を始めて3年目となり、これまでの支援活動の振り返りを行い、自分たちはどんな思いで行動していこうとしているのか、また被災地の学校の現状を十分理解しているのかを考え、追求活動に対する意欲を高めることをねらいとして実践を行った。

授業後の協議会では、これからも活動を続けようとする思いを強くもたせるために、「なぜ？」を掘り下げることが、交流を始めた当時の「思い」に気付かせ、「調べよう」、「やってみよう」の意欲につながるようになるのではないかという意見が出された。指導者からは、問題意識は活動の中から生まれること、そのために活動を繰り返す中で、「あれ、変だぞ」を蓄積していくことが問題意識の醸成には大切であることを指導された。また、今回の単元は、学習素材が大きく扱いにくいところがある。人や情報を十分活用することが、素材の弱さをカバーし、問題意識をもたせ、追求させる原動力となることを教えていただいた。



(2) 福祉学習の講話から

福祉についての学習は、お年寄りや障害者のためだけにあるのではないこと、「人とかかわりをもつこと」や「自分の幸せやみんなの幸せ」を考える学習であることを学ぶことができた。その点から、高齢者疑似体験、福祉施設交流のみに限定せず、園児との交流や地域の方との交流も活動として考えられることが分かった。

4 成果と反省

- (1) 阿賀町には子どもに探求させたい素晴らしい素材がたくさん存在することが分かった。しかし、子どもたちは意外に地域を知らない実態があることが分かり、総合的な学習の必要性和重要性を改めて感じた。
- (2) 各学校の取組の中から「炭づくり」、「漬け物づくり」、「豆腐づくり」、「米作り」、「草倉銅山」、「常浪川」、「阿賀野川」、「温泉の魅力」、「高齢者福祉」、「ボランティア活動」・・・等々、様々な活動の紹介がされた。どの計画も地域の方々とのかかわりを重視しなければならない計画であり、普段から地域とつながりをもたなければならぬことを実感することができた。